

科目名称：	日本語 I (留学生)	
担当者名：	王 迪	
区分	授業形態	単位数
特例科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
日本語表現文型の学修をすすめ、中・上級レベルの日本語文法の習得を目指します。また、聴解や読解、翻訳の練習なども取り入れ、「読む」「聞く」「話す」「書く」の総合的な日本語能力の向上を図ります。日本語能力試験の受験者がいる場合は、随時、合格のための対策を行う予定です。その他、過去の日本語能力試験などから抜粋した問題を、毎回課題として出します。次の回には解説をするので、そのための準備学修を求めます。		
授業の達成目標・到達目標		
まず「読む」「聞く」力の向上を図り、日本語能力検定N2レベルを達成目標とします。「読む」に関しては、新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論などの文章理解、また、一般的な話題に関する読み物の話の流れや表現意図を理解できる程度を目指します。「聞く」に関しては、自然に近いスピードのニュースなどを聞いて、内容が理解できる程度を目指します。その他、「話す」能力については、自然のスピードで日常会話ができるレベルを目標とします。「書く」能力については、おもにレポートを書くための基本的な文体を学修します。		

基礎教育科目	ディプロマポリシー (卒業認定・学位授与の方針)	重点項目
DP(1)	建学の精神「遊学の精神の涵養」と設立の理念「金城から地球を歩こう」を基に、基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	○
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、それぞれの専門分野において貢献できる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様な社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力が身についている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP(1)	50	20	30		100
全学DP(2)					0
全学DP(3)					0
全学DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容 (内容・経験年数を記載)	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
日本語活用力（話すこと）	学習内容について、原稿を元に日本語でスピーチし、簡単な質疑応答ができる。	自分の興味関心のあることについて日本語で説明できる。	日本語でコミュニケーションをとろうとする関心・意欲・態度を持ち自分のことについて日本語で簡単に伝えられる。	日本語でコミュニケーションをとろうとする関心・意欲・態度を持ち自分のことについて日本語で簡単に伝えられない。
日本語活用力（聞くこと）	ゆっくりはっきりと馴染みのある発音で話されれば、身近な話題に関する比較的長い会話や身近な事柄に関する説明の概要や要点を理解できる。	ゆっくりはっきりと、馴染みのある発音で話されれば、身近な話題に関する短い会話や身近な事柄に関する短い説明の概要や要点を理解できる。	ゆっくりはっきりと、馴染みのある発音で話されれば、身の周りの事柄に関する極短い会話や説明を理解することができる。	ゆっくりはっきりと、繰り返し話されれば、短い簡単な指示や挨拶を理解できる。身近で具体的な事物を表す単語を聞き取ることができる。
日本語活用力（読むこと）	身近な話題に関する記事、レポート、資料の概要や要点を理解し、必要な情報を読み取ることができる。	身近な話題に関して平易な日本語で書かれた短い説明を読み、概要や要点を理解できる。	興味のある話題に関して平易な日本語で書かれた極短い説明を読み、イラストや写真を参考にしながら、概要を理解することができる。	身近で具体的な事物を表す単語の意味を理解することができる。
日本語活用力（書くこと）	関心のあることについて、つながりのある文章で具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて書くことができる。	身近な事柄について、簡単な語句や文を用いて、短い説明文を書くことができる。	自分に関する極限られた情報を簡単な語句や文で書くことができる。	例文を参考にしながら、慣れ親しんだ語句や文を書くことができる。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第1回 ガイダンス／日本語能力小テスト	シラバスをよく読んでおくこと。	30分
第2回 「動作の対象」をあらわす表現～について／～に対して	小テストの復習をしてくること。	30分
第3回 「目的・手段・媒介」をあらわす表現～ように／～によって	前回授業「動作の対象」の復習をしてくること。課題の学習をしてくること。	30分
第4回 「起点・終点・限界・範囲」をあらわす表現～をはじめ／～にわたって	前回授業「目的・手段・媒介」の復習をしてくること。課題の学習をしてくること。	30分
第5回 「時点・場面」をあらわす表現～に際して／～において	前回授業「起点・終点・限界・範囲」の復習をしてくること。課題の学習をしてくること。	30分
第6回 「時間的同時性・時間的前後関係」をあらわす表現～たとたん／～ないうちに	前回授業「時点・場面」の復習をしてくること。課題の学習をしてくること。	30分
第7回 「進行・相関関係」をあらわす表現～一方だ／～につれて	前回授業「時間的同時性・時間的前後関係」の復習をしてくること。課題の学習をしてくること。	30分
第8回 「付帯・非付帯」をあらわす表現～ついでに／～ぬきで	前回授業「進行・相関関係」の復習をしてくること。課題の学習をしてくること。	30分
第9回 「限定」をあらわす表現～に限り	前回授業「付帯・非付帯」の復習をしてくること。課題の学習をしてくること。	30分
第10回 「非限定・付加」をあらわす表現～ばかりでなく／～に加えて	前回授業「限定」の復習をしてくること。課題の学習をしてくること。	30分
第11回 「比較・最上級・対比」をあらわす表現～に比べて／～どころか	前回授業「非限定・付加」の復習をしてくること。課題の学習をしてくること。	30分
第12回 「判断の立場・評価の視点」をあらわす表現～にとって／～にしては	前回授業「比較・最上級・対比」の復習をしてくること。課題の学習をしてくること。	30分
第13回 「基準」をあらわす表現～に基づいて	前回授業「判断の立場・評価の視点」の復習をしてくること。課題の学習をしてくること。	30分
第14回 「関連・対応」をあらわす表現～に応じて／～をきっかけに	前回授業「基準」の復習をしてくること。課題の学習をしてくること。	30分
第15回 「無関係・無視・例外」をあらわす表現（～を問わず／～はともかく）。総まとめプレゼンテーション	前回授業「関連・対応」の復習をしてくること。課題の学習をしてくること。	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、復習および課題プリントをまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、50%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。
小テストを20%、課題の実施状況を30%で評価する。

課題に対してのフィードバック

授業内プリントは評価し返却する。

教科書・参考書

教科書：改訂版『どんなときどう使う 日本語表現文型500』 友松悦子ほか著 株式会社アルク
教科書を元に事前学習をしてもらい、授業内で解説する。